

ここで、ひとつの言葉をご紹介したいと思えます。「おまかせ」という言葉です。お寿司屋さんなどで「おまかせ」と言うと、「あなたに任せます」「一番よいものをお願いします」という意味になります。しかしそれは、自分が「任せる」と決めているという点で、まだ自分が主体となっています。浄土真宗でいう「おまかせ」は、それとは少し違います。それは、「自分が任せる」と決めるのではなく、「そもそも自分はすべてをコントロールできていたわけではなかった」と気づかされることです。そしてさらに大切なことは、そのような私たちが「見捨てられていない、すでに願われている存在」であるということです。

この「見捨てない」というはたらきが、阿弥陀仏のはたらきです。阿弥陀仏は、自分の思い通りに生きることができない私たちを、そのまま抱きとめ、どうかこのはたらきに気付いておくれ、と願い、はたらきかけ続けてくださっています。私たちが「任せよう」と思う前から、すでにそのはたらきの中に生かされているのです。

そのことに気づかされたとき、自然と口からこぼれてくるのが「南無阿弥陀仏」のお念仏です。それは、自分が何かを成し遂げた証のようなものではありません。むしろ、自分の力ではどうにもならないこの身が、お慈悲の心に抱かれていたということへの気づきのあらわれです。

愛する方の死という現実の中で、先に浄土へ

往かれた方も、この同じ念仏のはたらきの中に生き、今は仏さまとして私たちを見守り、そして同じ道へと導いてくださっている存在であると、浄土真宗では聞かせていただいております。「どうか同じ阿弥陀仏さまのおはたらきにあってください」と、今もなお、愛する方々は私たちに呼びかけ続けてくださっているのです。こうして振り返ってみると、カーリングの一投も、私たちの人生も、すべては自分ひとりでも成り立っているのではなく、さまざまなご縁の中で成り立っていることが見えてきます。そしてその中に、「そのままでよい」とはたらき続けてくださる大きなはたらきがあることに気づかされます。これからも皆さまとともに、「おまかせ」の心で、南無阿弥陀仏とお念仏申しながら、その教えを聞かせていただく生活をさせていただきます。

合掌

駐在開教使

橋本顕正

枕経のお知らせ

ご家族の枕経を検討されている場合は、当寺院の寺務所へご連絡いただくようお願いしております。ご希望の時間を調整し、ご一緒に臨終の仏徳讃嘆のお勤め、もしくは、故人を偲びながら、ご家族の皆さんとお勤めをさせていただきます。当寺院に事前にご連絡いただくことにより、ご家族の質問への対応や必要な情報を提供することが可能となります。

トロント本願寺 理事会

祥月法要のお知らせ

祥月法要とは、祥月命日（故人が往生された月のご命日）をご縁として仏法に会い、阿弥陀さまの仏徳を讃嘆し、報謝の思いでお勤めする法要です。

日時… 五月 三日(日)

六月 七日(日)

(日本語…午前十時四十五分から)

(英語…午前十一時から)

※英語法要のみオンライン配信

どうぞ祥月でない方も皆様ご参拝下さい。



敬老会のお知らせ

日時… 五月 十七日(日)

七七歳・八八歳・九九歳、百歳以上のメンバーをお祝いする敬老会が行われます。

どうぞお孫さんや曾孫さんなどご家族そろって参加していただければと思います。

詳しくは英語版ニュースレターにてご確認をお願いします。



佛心

二〇二六年五月号

浄土真宗 本願寺派

トロント本願寺

「思い通りにいかない一投から」



春らしい暖かさを感じる日々が少しずつ増えてきました。季節がゆつくりと移り変わっていくのを感じます。今月は正信偈の連載をお休みし、四月の祥月法要でお話しした内容を、寺報用に少し書き直してお届けいたします。

四月の下旬に、お寺でグループチケットを購入したブルージェイズの試合を観に行かせていただきました。対戦相手がドジャースということもあり、スタジアムには多くの日本人の姿が見られました。その中で特に印象に残ったのが、ブルージェイズに加入した岡本選手の登場曲でした。それは、私の地元のアーティストの曲で、兄が大ファンだったこともあり、私自身も幼い頃からよく耳にしていたものです。その馴染み深い音楽が、海を越えてメジャーリーグのスタジアムで流れている——その光景に、言葉にしたい思いがありました。

また同じ日の夜には、そのままカーリングのプロリーグの試合を観に行きました。日本代表にも選ばれるような選手たちを間近で見ることができ、試合後には少しお話しする機会にも恵

まれました。カーリングの日本代表の選手たちは、カナダで試合をする機会も多く、ブリティッシュコロンビア州のケ

ローナで大会がある際には、決まって彼らを支える方がいらつしやいます。その方が実はケローナのお寺のメンバーであることもあり、その話題で大いに話が弾みました。

私自身も、二世リーグでカーリングをトロントに来てからやらせていただいているので、つくづく思うことがあります。「カーリングは、思っている以上に自分の思い通りにならない」スポーツであると感じます。完璧だと思つたショットでも、ストーンが行き過ぎたり、止まりすぎたり、予想以上に曲がったりすることがあります。「なぜだろう」と考えると、チームメイトからは「今日は氷が速いね」「このラインは少し重いね」「スワイプが足りなかったかも」といった声が聞こえてきます。同じように投げて、同じ結果にはなりません。そこには、自分の力だけではどうにもならない多くの条件が関わっていることに気づかされます。

仏教ではこれを「縁起」といいます。すべてのごとは、さまざまな条件が重なり合って成り立っており、ひとつとして独立して存在しているものはない、という教えです。カーリングのストーンひとつをとっても、氷の状態、会場の温度、スワイプする仲間の動き、そして自

分でも気づかないようなわずかな条件が重なり合って、その結果が生まれています。それは決して「自分のショット」だけで決まるものではありません。

これは、そのまま私たちの人生にも当てはまるのではないのでしょうか。私たちはつい、「自分の努力で結果が決まる」「自分の選択で人生が決まる」と考えがちです。もちろん努力は大切ですが、すべてが自分の思い通りになるわけではありません。うまくいくときもあれば、思いがけずうまくいかないこともある。まさにカーリングと同じです。

そしてそれは、病や老い、そして大切な人との別れといった出来事に直面したとき、よりはつきりと現れてきます。ある日突然、医師から思いがけない病を告げられることもあれば、昨日まで当たり前のようにそばにいた人と、突然別れなければならぬこともあり。それほど大切に思っている、時間の流れを止めることはできませんし、別れを避けることもできません。そのとき、私たちは初めて、「自分の力ではどうにもならない現実」に出会います。では、そのような現実の中で、私たちはどのように生きていけばよいのでしょうか。自分ではどうにもならないと知ったとき、私たちはただ立ち尽くすしかないのでしょうか。

【次頁に続く】